

「出題の意図」

選抜区分	2021年度（選抜区分：一般選抜 後期日程） 文学部人間関係学科（科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>1. 出題の背景・求める能力</p> <p>後期日程の試験科目である集団討論は、与えられた討論テーマに基づいた数人の受験生による討論である。テーマを設定した討論場面において、自分自身の見解をテーマに沿って論理的・独創的に表現できる能力、情報提供や意見調整など円滑なコミュニケーションを進める能力、集団の中で適切なかたちでリーダーシップを発揮していきける能力などが求められる。</p> <p>2. 解説(解法)</p> <p>今年度の集団討論は、1試験室につき受験生6～5名を1グループとして3つの試験室で同時に進行し、それを2回繰り返す形で進めた。同時に行う3試験室は共通する討論テーマとし、1回目と2回目は別のテーマを使用した。以下に各回のテーマごとに解説する。</p> <p>【集団討論1回目】</p> <p>解説：「ワークライフバランス」を討論テーマとした。働きすぎの防止、正社員と非正規社員の雇用格差の解消といった働き方改革の主旨を紹介したうえで議論を求めた。各グループでは労働格差、労働者の心の問題のほか、成果主義の導入などの意見が出され討論が展開されたが、受験生・グループによっては雇用や就労についてイメージができていなかったり、論点がまとまらず表面的な議論になってしまったりする様子があった。</p> <p>現在の日本の働き方がかかえる課題について当事者としての将来の自身の働き方も念頭におきつつ、コロナ禍でのテレワークの普及や雇用の問題など昨今の社会的状況の変化、政策のあり方を含めた多様な視点からテーマへの議論を深めていくことを期待した。</p> <p>【集団討論2回目】</p> <p>解説：「マイナンバーの活用」を討論テーマとした。行政手続きにおける利便性や個人情報管理における懸念を示した上で、マイナンバーの活用のあり方について議論を求めた。マイナンバーについての知識を十分に備えていないものの互いに意見を出し合う中で活発な議論が行われたグループがあった一方、マイナンバーのメリットばかりに意見が集中したり、マイナンバーよりもマイナンバーカードの活用や広報など論点がずれてしまったりする様子もあった。</p> <p>テーマについてメリットとデメリット、肯定的意見と否定的意見といった両面を意識的に捉えた上で、他者の意見を尊重し、多様な視点を理解しながら、ステレオタイプではない自らの独創的な意見も構築し、それを</p>

説得的に伝えられているか、さらに、全体の議論を深めていけるコミュニケーション力についても採点上の重要なポイントとしている。

➤ **受験生への情報提供**

普段の生活や社会の動きの中から問題点をみつけ、それを言葉にする練習をしておくことと集団討論の時に役立つと思います。また、それを友達と話し合ってみるのも良いと思います。自分の意見を持つ、他者とやりとりすることで、多様な視点を理解し獲得することや、問題の捉え方について深めていくことが求められます。